



※ 問題集の問題は、全て同じ強度で取り組む必要はない。

論文問題集の利用方法（必ず読んで各自「工夫」すること！）

重要性は【解答例】の部分に設問ごとにA B Cで表示しています（A：8割以上書きたい、B：普通、C：難問 or 出題可能性低い）。重要性は客観的な重要性であり、直近の本試験での出題は考慮していません。
AとBが重要です。また、過去問は平成22年以降が重要です。それ以前の過去問については、知識の確認や整理として利用すればよい。
過去問以外では、事例型問題を優先してください。純粋説明型問題は知識の確認や整理として利用すればよい。

覚えた知識をスムーズに引き出せるようにすることが目的

論文対策講義では、H27以降の論文式本試験（H27第2問を除く）の演習・解答分析を扱います。
上記の過去問も問題集に収録されていますが、それらは、論文対策講義の受講時に解く（答案構成をする）ので、それまではスキップ。
1月・2月は、他の問題を通じて、知識の確認・整理。

例えば、no. 2 (p.5)

問「公開会社・非公開会社で比較しなさい。」

①総会の招集通知 ②議題提案権

⇒ ポイント（①書面か・期間 ②少数/単独、保有期間）
条文の確認（必要に応じて、趣旨も）

知識の引き出しを
開ける。
イメージ

書かずOK

Copyright © 2023 TAC. Confidential. 企業法論文学習法 6

企業法 論文学習法

担当：大橋講師

1. 短答式試験と論文式試験の違い
2. 良い答案とは
3. 良い答案を書く能力を付けるために必要な作業
4. 具体的な学習イメージ・問題集に関する留意点
5. その他

1. 短答式試験と論文式試験の違い

【短答式試験】：

多くの場合、条文知識に基づく文章の○×の判断（結論の判断のみ）

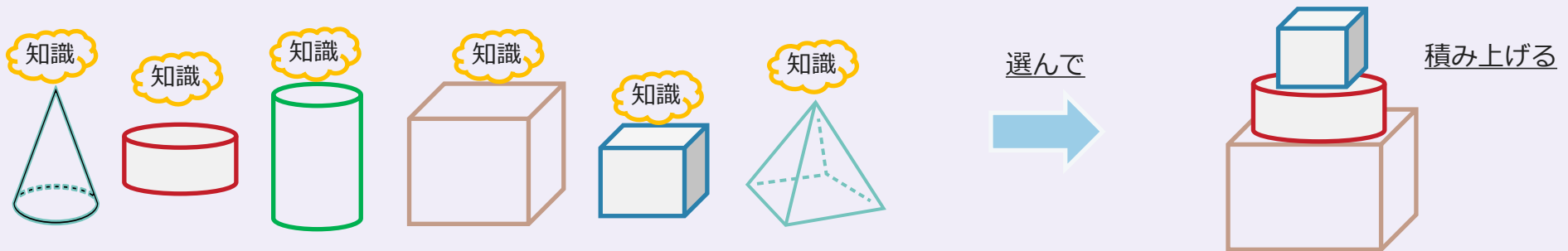
【論文式試験】： 登場する会社・人物

- ・ 問題文の事例の状況を分析・理解し、
- ・ いかなる条文・論点を書くかを判断し、 第1関門. 条文選択
- ・ 順序だてて論述する。(各小問で、10～20行前後)

小問20 合計30行で50点

2. 良い答案とは

◎答案作成は、ブロック（積み木＝知識のかたまり）の積み上げ



◎良い答案とは

ex. 具体的に
どのような法令違反?

ex. 831
423. 解答の軸とした条文選択が正しい
(第1関門・第2関門)

ブロックの選択が正しい

ex. 条々趣旨.
理由付けなど 論述の表現・内容が適切
(特に、論点型問題の場合)

個々のブロックの形がきれい

論述の順序が適切
全体のバランスが良い

ブロックを重ねる順番が正しい
バランスがきれい

20行などの
ケース.

3. 良い答案を書く能力を付けるために必要な作業 **TAC**

【インプット】 的学習 : テキストの精読

i <u>条文知識の整理、論点（論証例）の理解</u>	= いろいろなブロックをそろえる
ii 正しい表現・論述を身に付ける	= ブロックの形をきれいにする

【アウトプット】 的学習 : 答練・問題集

i <u>適切な条文・論点の選択（第一/第二関門）</u>	= 適切なブロックを選ぶ訓練
ii 適切な表現・順序・バランスで論述する	= 積み上げのパターンに慣れる

比率は学習状況や時期による。

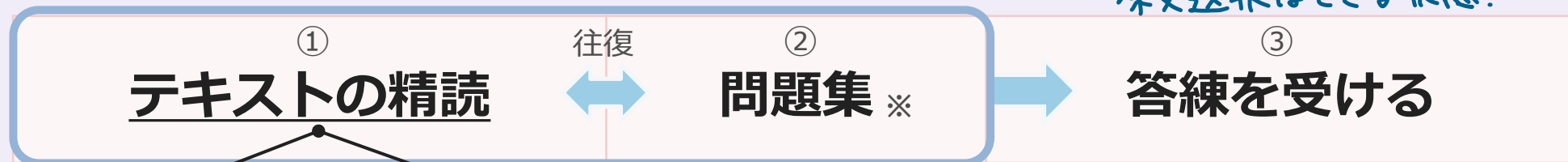
両者は表裏一体。密接に関連 ⇒ バランスが重要（往復）

4. 具体的な学習イメージ

【1月～4月までの学習イメージ】

6～70%など.
(準備をした上で)

~~白紙~~
条文選択はできる状態.



※ 問題集の問題は、全て同じ強度で取り組む必要はない。
(重要性と問題のタイプによる)

条文知識の整理

論点・論証例
を理解・覚える

1.2月

重要性希薄.

論点の論証例は、テキスト記載の流れで何度か書く。

(⇒ 文章を書くことへの慣れ)

文章構造の理解
問題提起

~~丸暗記~~ ~~単なる経~~

趣旨 理由
付け
など

隔週 2 weeks → 答練 → 毎日復習 フィードバック

①② 準備

答練 (基礎・応用) の進捗を目安に①・②・③を繰り返して進む

機関・株式 など

3月

1.2

中々論点ではないため準備時間が
少なくて済む

ex. 3月～
機関・株式
2周目の復習

※ 論文対策講義は、過去問を使った実践的な内容。学習が進んだ段階で受講すると良い。

4-2. 問題集に関する留意点

※ 問題集の問題は、全て同じ強度で取り組む必要はない。

論文問題集の利用方法（必ず読んで各自「工夫」すること！）

重要性は【解答例】の部分に設問ごとにABCで表示しています（A：8割以上書きたい、B：普通、C：難問 or 出題可能性低い）。重要性は客観的な重要性であり、直近の本試験での出題は考慮していません。

AとBが重要です。また、過去問は平成 22 年以降が重要です。それ以前の過去問については、知識の確認や整理として利用すればよい。

過去問以外では、事例型問題を優先してください。純粋説明型問題は、知識の確認や整理として利用すればよい。

覚えた知識をスムーズに引き出せるようにすることが目的

論文対策講義では、H27以降の論文式本試験（H27第2問を除く）の演習・解答分析を扱います。

上記の過去問も問題集に収録されていますが、それらは、論文対策講義の受講時に解く（答案構成をする）ので、それまではスキップ。

1月・2月は、他の問題を通じて、知識の確認・整理。

例えば、no. 2（p.5）

問「公開会社・非公開会社で比較しなさい。」

①総会の招集通知 ②議題提案権

イメージ

⇒ ポイント（①書面か・期間 ②少数/単独、保有期間）
条文の確認（必要に応じて、趣旨も）書かずOK.

知識の引き出しを
開ける。

5. その他

- ・丸暗記はほとんど意味はない。
ただし、理論の勉強に覚えることは必要不可欠。

- ・どのような目的で何を覚えようとしているのか意識する。

⇒ ^{まず}① 理解した内容の定着 or ② 正しい表現・論述

~~一時点の理解~~

メンテナス

ポイントに要約して覚える
要点を把握できればよい

||

合格ラインを超えた先の話
偏差値56以上など

直前期の最後の仕上げ

~~一言一句~~

要素に分解

条文
知識

論点は？

結論

趣旨・理由

状況

企業法

合否は①で分かれる

まず条文選択ができること